

解 答

55. (C)

56. (C)

57. (C)

58. (A)

59. (C)

55. 「私たちの先生はたくさんの宿題を出し、私たちはそれを終わるのにとってもたくさんの時間を割かなければなりません。数学の問題を解くのは大変だから、一緒に取り組んだ方が良いでしょう」

【誤】(C)for completing→【正】to completing

- ▶ 本問で誤りを見抜くポイントは動詞devoteの語法です。devote A **to** Bで「BにAをささげる、充てる」という意味です。単語集のみの勉強では「devote=～をささげる」としか記憶に残りませんので、このような問題に対応するためにも、こまめに辞書を引き、語法の知識を増やす必要があります。
- ▶ 下線部(A)homework「宿題」は不可算名詞なので、a lot ofで修飾されていてもhomeworksと複数形にはなりません。

[語句]

devote A to B「B(人・仕事・目的など)にA(時間・努力・金など)をささげる、充てる」

They *devoted* the afternoon *to* shopping.

(彼らは午後を買い物に費やした)

had better do「～しなさい/～したほうがよい」

- ▶ had betterは2語で1つの助動詞として扱います。

You *had better* report the accident to the police.

(その事故のことを警察に通報しなさい)

- ▶ 否定形は「had better **not** + 動詞の原形」という語順になります。

You *had better not* tell this secret to anyone. (この秘密は誰にも言うなよ)

56. A:「空港へのバスはどれくらいの頻度で出ていますか？」

B:「大抵は15分ごとです。でも、週末の本数はそれより少なくなります」

【誤】(C)in weekends→【正】on weekends

- ▶ 問55や本問の下線部(C)のように「前置詞+(動)名詞」に下線が施されている場合、前置詞が正しいかをチェックします。問55では特定の動詞(devote)と結びつく前置詞(×for→to)が正しいかが問題の焦点になっていましたが、本問では文脈上、正しい前置詞が使われているかどうか焦点になっています。
- ▶ 『時』を表す前置詞の中でも「特定の日」を表す場合はonを用いるので、in weekends→on weekendsとすれば正しい表現になります。

[語句]

every+基数+複数名詞「～ごとに」

I meet him once *every six months*. (私は彼に6カ月ごとに1回会います)

57. 「このプロジェクトはこの1週間で終わるべきだったのに。あなたたちは私がない間、何をしていたのですか？ 予定より遅れるわけにはいかないのですよ」

【誤】(C)during→【正】while

- ▶ 文法/語法問題ゼミで解説した「前置詞vs接続詞vs副詞」パターンの知識があれば簡単に解ける問題です。duringは前置詞なのであとには名詞が続き、本問のように節(SVを含む文)を続けることはできません。よって、during(～の間)と同様の意味をもつ接続詞while(～している間に)で置き換えれば正しい表現になります。

[語句]

should have+過去分詞「～すべきだったのに(実際はしなかった)」

You *should have taken* some medicine. (薬を飲んでおくべきだったのに)

can afford to do「～する余裕がある」

- ▶ 通例、否定文・疑問文で用います。

I *can't afford to keep* up with the latest fashion.

(私は最新の流行を追いかける余裕はありません)

□ **get behind schedule** 「予定より遅れる」

58. 「ロドニーは2015年に高校を卒業するまで、生徒会長を2年間務めました」

【誤】(A)has served(現在完了)→【正】had served(過去完了)

- ▶ until以下の節がなければ(A)has servedは正しい表現ですが、卒業した時を基準にそれ以前のことを述べているので過去完了形にする必要があります。
- ▶ 本問では(B)presidentが無冠詞であることに迷った人も多いと思います。これは正しい表現で、**官職などが補語になる場合は無冠詞になります。**

[例] He was elected mayor of the city. ← mayor「市長職」であるので**無冠詞補語**

- ▶ (D)graduated fromにおける動詞graduateは他動詞と間違えやすい自動詞です。このような動詞は今後も要注意ですので、整理して覚えておきましょう。

他動詞と間違えやすい自動詞

- **apologize (to A) for B** 「(Aに)Bのことを謝る」
- **complain (to A) of/about B** 「(Aに)Bについて不平を言う」
- **graduate from ~** 「~を卒業する」      □ **hope for ~** 「~を望む」
- **object to ~** 「~に反対する」 cf. **oppose** 「~に反対する」は他動詞
- **participate in ~** 「~に参加する」 cf. **join** 「~に参加する」は他動詞
- **argue/quarrel with A about/over B** 「BについてAと口論する」

59. 「英語の先生に課題をいつ提出すべきか覚えていません。締め切りの日を書き留めるのを忘れてしまったので、先生のところへ行って尋ねてみるつもりです」

【誤】(C)writing→【正】to write

- ▶ 他動詞には目的語が動名詞と不定詞で意味の異なるものがあり、forgetはその代表例です。

- **forget to doing** 「~したことを忘れる」
  - **forget to do** 「~し忘れる」

提出期日を把握していないのは、締切日 (the due date) を「**メモし忘れた**」からなので、writing(動名詞)→to write(不定詞)とすれば正しい表現となります。

- ▶ (B)hand inは他動詞の働きをする句動詞で「~を提出する」という意味です。南山英語ではレポートや宿題を教授(先生)に提出するという文章が頻出ですので、「~を提出する」という意味の動詞をまとめておきます。

「~を提出する」という意味の他動詞

- **submit/give in ~** 「(書類・案など)を提出する」
- **hand in ~/turn in ~** 「(宿題・レポートなど)を提出する」
- **present** 「(報告書など)を提出する」
- **send in ~** 「(郵送・メールで)~を提出する」

[語句]

- **assignment** 「宿題、割り当てられた仕事[任務]」
- **write down ~** 「(考え・名前など)を書き留める」 (=put down ~)

**Write down** my address before you forget it.

(忘れないうちに私の住所を書き留めておいてください)